

令和7年度第2回さいたま市がん対策推進協議会

日時：令和8年1月7日（水）

午後3時00分から午後4時30分まで

場所：さいたま市保健所 第1研修室

次 第

1 開 会

2 議 事

- (1) 第2次さいたま市がん対策推進計画の進行管理について
- (2) さいたま市骨髄移植ドナー助成費交付事業について

3 そ の 他

4 閉 会

さいたま市がん対策推進協議会委員名簿

(令和6年10月13日から令和8年10月12日まで)

令和7年10月6日現在

	氏名	所属
1	おがわ ともこ 小川 知子	さいたま商工会議所女性会 副会長
2	かげやま ゆきお 影山 幸雄	埼玉県立がんセンター 病院長
3	きたがわ としこ 北川 敏子	さいたま労働基準監督署 署長
4	きよた かずや 清田 和也	さいたま赤十字病院 院長
5	きりさわ しげひこ 桐澤 重彦	さいたま市4医師会連絡協議会 一般社団法人 浦和医師会 会長
6	こやま のりえ 小山 紀枝	Çava! (サヴァ) ~さいたま BEC~ (患者団体)
7	さわと ともこ 澤登 智子	公益社団法人 埼玉県看護協会 会長
8	たにさき みちこ 谷崎 美智子	市民公募委員
9	つばい えいのり 坪井 栄範	さいたま市歯科医師会 副会長
10	にいずみ まさこ 新泉 真砂子	一般社団法人 埼玉県訪問看護ステーション協会
11	はせべ ただし 長谷部 忠史	一般社団法人 さいたま市薬剤師会 副会長
12	ばば ひでお 馬場 秀雄	さいたま市立病院 副院長
13	やまぐち てつお 山口 哲生	市民公募委員
14	りきやま としき 力山 敏樹	自治医科大学附属さいたま医療センター 教授
15	わたなべ ゆうこ 渡邊 祐子	埼玉大学 非常勤講師

(五十音順、敬称略)

令和7年度第2回さいたま市がん対策推進協議会
関係課職員名簿

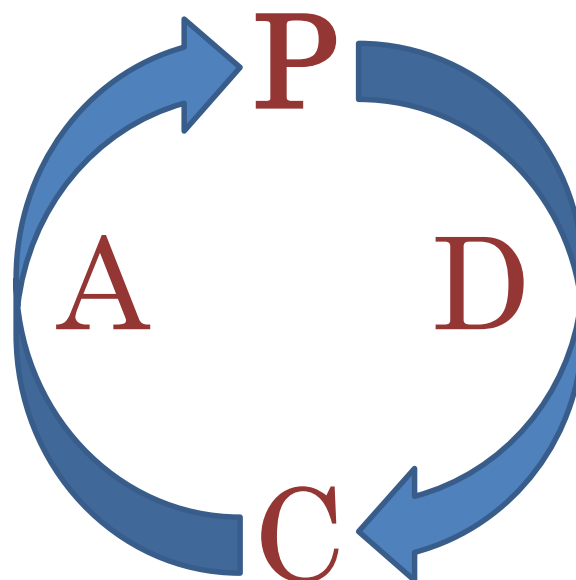
所属	役職	氏名	備考
保健部	部長	齋藤 貴弘	
保健所	所長	桑島 昭文	
地域医療課	課長補佐兼係長	田島 正信	
市立病院 患者支援センター	主査	武田 昌身	
健康支援課	課長補佐兼係長 (保健師)	林 夏奈	
	主任(保健師)	高木 悠浩	
感染症対策課	主幹	熊井 崇子	
いきいき長寿推進課	係長	松尾 真二	
労働政策課	課長補佐兼係長	栗原 知明	
西区役所保健センター	課長補佐兼係長	小林 裕美子	
教育課程指導課	指導主事	千葉 啓太	
健康教育課	指導主事	鴨志田 祐子	
保健衛生総務課	参事兼課長	浅野 昌則	
	参与	今野 弘美	
	課長補佐兼係長	竹村 真	
	主査	山田 希亜	
	主査	中杉 晃子	
	主事	染谷 明日美	

がん対策推進計画の進行管理スケジュール

(PDCA サイクルイメージ)

2～3月 **各団体・各課**
現年度の実績を元に
次年度の予定を立案
●取組シートを記入する

各団体・各課
次年度取組を
改善



各団体・各課
立案した予定を
元に取組を実施

がん対策推進協議会

7月 各団体・各課の前年度実績の確認
現年度の取組予定について確認・検討

1月 事務局の現年度実績について確認・検討
＝次年度より効果的に実施するための
情報交換

さいたま市のがん対策における令和7年度実績(事務局分)について

1 さいたま市がん患者アピアランスケア支援事業

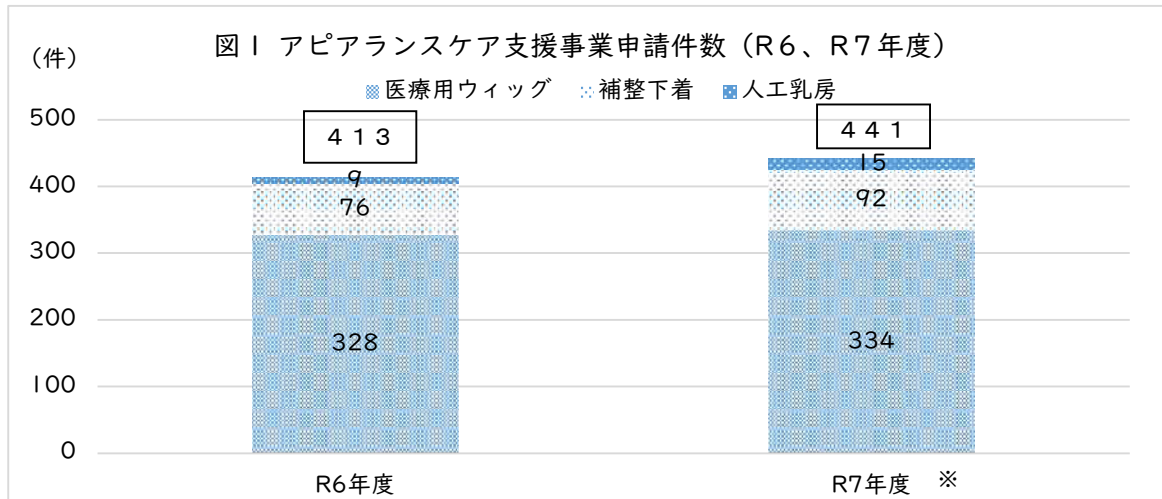
(1) 目的

がん患者の外見の変化による心理的負担を軽減するとともに、治療と社会参加の両立を支援し、療養生活の質の向上及び経済的負担の軽減を図る。

(2) 事業概要

がん治療による外見の変化を補う 目的で購入した医療用補整具購入費の一部を補助する。

(3) 実績(事業は令和6年度から開始)



※令和6年度は令和6年7月1日から申請受付開始(補助対象は令和6年4月1日以降に購入した医療用補整具)
※令和7年度分は令和7年11月末時点の件数

2 さいたま市若年がん患者ターミナルケア在宅療養生活支援事業

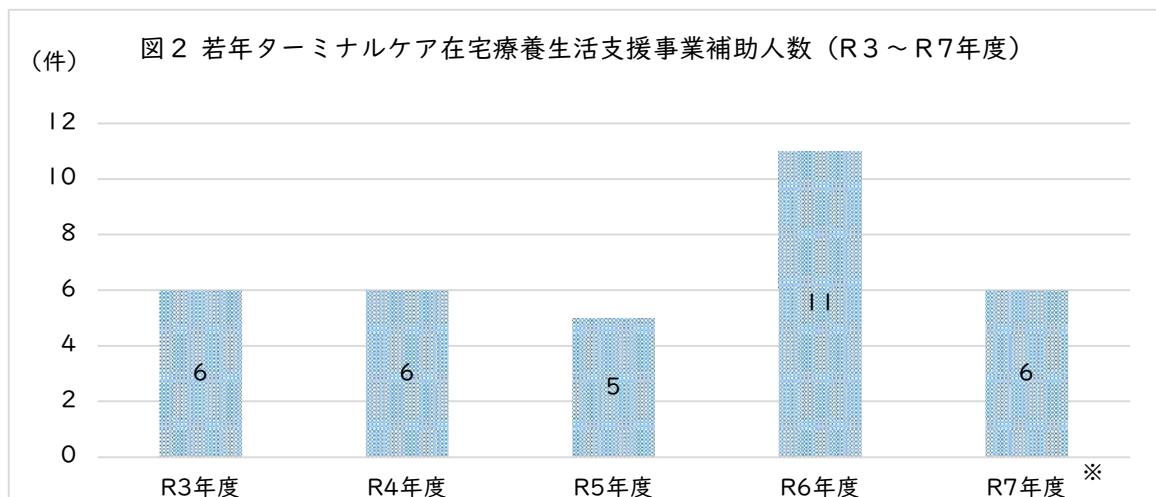
(1) 目的

末期と診断された若年(20歳以上40歳未満)のがん患者が、介護保険が適用される40歳以上のがん患者と同等のサービスを受けられるよう患者及び家族の経済的負担の軽減を図る。

(2) 事業概要

介護保険が適用される在宅療養生活サービス(訪問介護、訪問入浴介護、福祉用具貸与及び福祉用具購入)の利用料の一部を補助する。

(3) 実績



3 さいたま市骨髄移植ドナー助成費交付事業

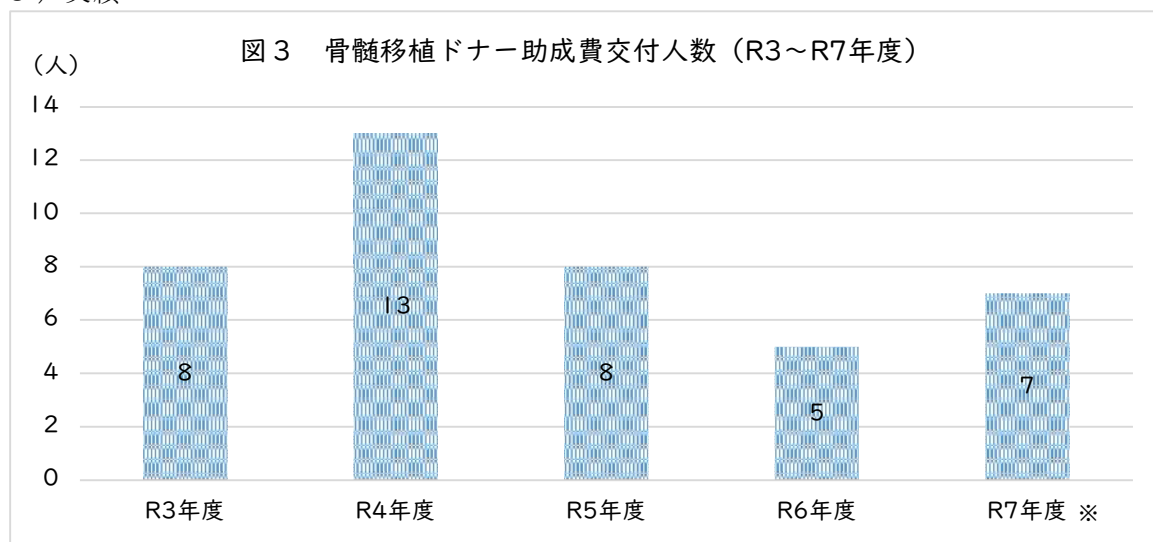
(1) 目的

骨髄・末梢血幹細胞提供者の休業による経済的負担の軽減をもって、骨髄・末梢血幹細胞移植の推進及びドナー登録の推進を図る。

(2) 事業概要

公益財団法人日本骨髄バンクが実施する骨髄バンク事業における骨髄・末梢血幹細胞の提供を行った者及び骨髄・末梢血幹細胞の提供に係る最終同意を行った後に当該骨髄・末梢血幹細胞の提供が中止された者に対し、さいたま市骨髄移植ドナー助成費を交付する。

(3) 実績



※令和7年度分は令和7年11月末時点の件数

4 さいたま市がん対策推進講演会

(1) テーマ

がんと向き合う～お金と相談先～

(2) 日時

令和7年10月27日(月)13時30分から15時30分まで

(3) 形式

会場(浦和コミュニティセンター9階 第15集会室)とオンラインのハイブリット形式

(4) 主催

さいたま市、損害保険ジャパン株式会社さいたま第二支社

(5) 参加者数

会場 25人、オンライン視聴 27人、計52人

(6) 内容

第一部講演「がん療養とお金のはなし」

講師 一般社団法人患者家計サポート協会 代表理事 黒田 ちはる氏

第二部講演「がん相談支援センターについて」

講師 埼玉県立がんセンター 患者サポートセンター 看護師 阪本 紀美江氏

(7) アンケート集計結果 参加者:52人 回答者:44人 回答率:84.6%

図4 アンケート回答者の年代

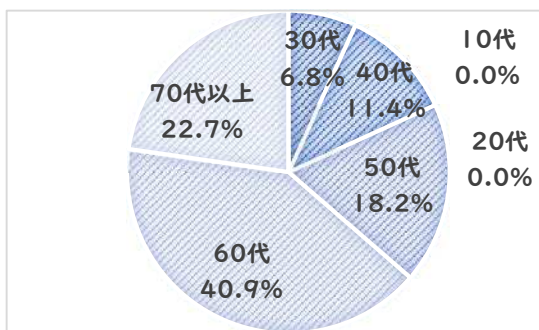


図5 講演会に申し込んだ理由[複数回答可]

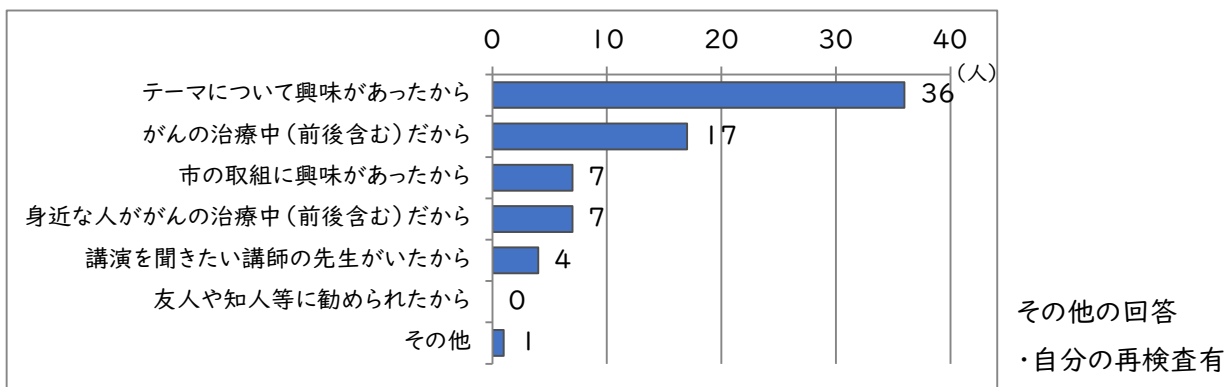
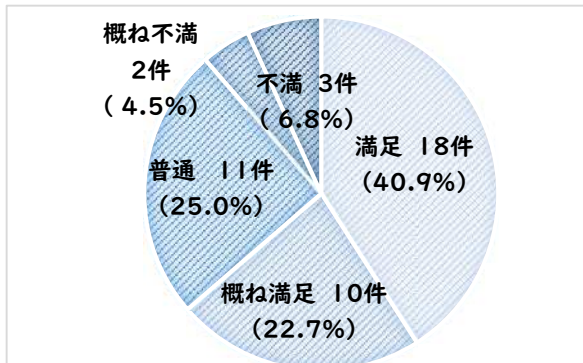


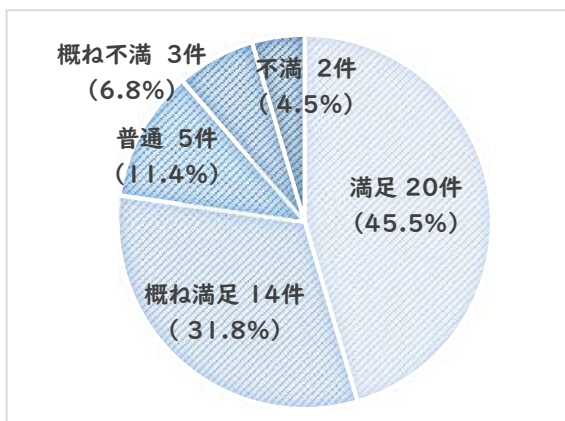
図6 第1部「がん療養とお金のはなし」の満足度



- ・今自分にとって必要な情報を得ることができ、お話が分かりやすかった。
- ・見直すポイントについて分かりやすく説明してくれたから。また、食費とかを切り詰めやすいが、食費とかに過剰に費やしていないならばそこではないということも、なるほどなど思った。
- ・療養にはお金がかかり、避けて通れない問題と認識いたしました。

※小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%になるとは限らない。

図7 第2部「がん相談支援センターについて」の満足度



- ・わかりやすかったです。がんセンターの相談支援センターは、誰でも相談出来ることを知りました。
- ・支援センターの使い方が具体的にわかった。今後使用する場合の参考になった。
- ・一般的な相談は誰もが尋ねそうな内容で、こういう相談もしていいのだとわかった。

※図5及び6の「概ね不満」、「不満」はオンラインの音声、映像の途切れによるもの。

<今後、取り上げてほしいテーマ>

(治療や病態に関すること)

- ・ガン治療の最新治療法
- ・免疫療法
- ・再生医療
- ・抗がん治療
- ・ゲノムコーディネーター
- ・肺がん
- ・リンパ浮腫
- ・がん治療における医師からの話(市立病院など)、将来の治療方法について、補助金や物品について
- ・がん検診後～手術の実例のお話を

(お金に関すること)

- ・部位、ステージ毎の治療費、データ
- ・がん保険
- ・様々なガンについて、生活維持の必要な薬のおおよその金額(毎月)
- ・お金に関する情報が変化しそうなので、随時情報発信いただけると助かります。
- ・余命わずかの方は特に支援するまでに時間がなく、お金の準備等が難しい。精神的にも受け入れが難しく、難しい。そんな方たちへのスピーディーな対応支援について聞きたいです。

(緩和ケアに関すること)

- ・緩和ケア(2)
- ・緩和ケアやフレイルについて
- ・治療後皆さんどのような生活をしているのか、緩和ケアをどのくらいの人が受けているのか。

(がん患者への対応に関すること)

- ・がん治療復帰後の就労支援等について
- ・がんに関与した社員へのサポート
- ・介助者が末期患者への声かけや、対応について学びたい。
- ・がん患者の介護保険利用

(がん検診に関すること)

- ・がん検診の有効性など、市民も聞くのであるならば、啓発する意味で必要かなと思います。

5 がん教育出前講座

(1) 目的

若い世代ががんに対する正しい知識や検診の重要性を学ぶことで、がんに対する関心を高め、予防行動や将来のがん検診の受診を促すとともに、家庭内での波及効果を期待するもの。

(2) 事業概要

市立各学校の児童・生徒を対象に、外部講師が、がんに関する基本的な知識や正しい情報を伝えるとともに、予防や早期発見への呼びかけを行う。

(3) 外部講師

医師、看護師、薬剤師、がん経験者

(4) テーマ

がんに関わる話から生命の大切さを学ぶ、がんに関する基本的な情報やがん予防の大切さ、がんを経験して伝えたいこと 等

(4) 実績

令和7年度は4校にて開催予定。

6 デジタル市民公開講座『おしえてリンパ腫のコト』

(1) 目的

第2次さいたま市がん対策推進計画の分野別施策の一つである「がんに関する知識の普及」に基づき、市民が必要とするタイミングで必要な情報を入手できるようがんに関する正しい情報を提供する。

(2) 事業概要

リンパ腫に関する正しい知識を普及啓発するための動画を作成、年度内に市ホームページにて公開予定。

本動画は、さいたま市と「がん啓発・がん検診の受診率向上に向けた協定」を締結している中外製薬株式会社が協働して作成中。

(資料①) 受診率向上の取組



図書館における啓発展示



4月中旬に対象者全員に郵送



4月市報と共に全戸配布

市民のがんの早期発見のため、検診の実施と様々な媒体や機会を活用した受診勧奨等を行っています。

(資料②) 「がん検診に関するあり方に関する検討会」 における受診率向上の手法

第4章 がん検診の受診率向上の手法
 受診率向上対策としてはまず受診者数(率)を正確に把握したうえで、受診者数を増やす取組が必要である。

～～中略～～

4. 2. その他の主な受診率向上対策
 (1) がん検診の意義や必要性に対する理解度向上の取組
 がん検診は診療と異なり無症状者が受けるべきものだが、「がん対策に関する世論調査(令和5年度、内閣府)」ではがん検診を受診しない理由として、「心配な時はいつでも医療機関を受診できる」、「費用がかかり経済的にも負担になる」、「受ける時間がない」、「健康状態に自信があり、必要性を感じない」が上位に挙げられている。これは国民の間で「がん検診」と「診療」が混同されている状況が示唆され、がん検診の意味について更なる情報提供が必要である。

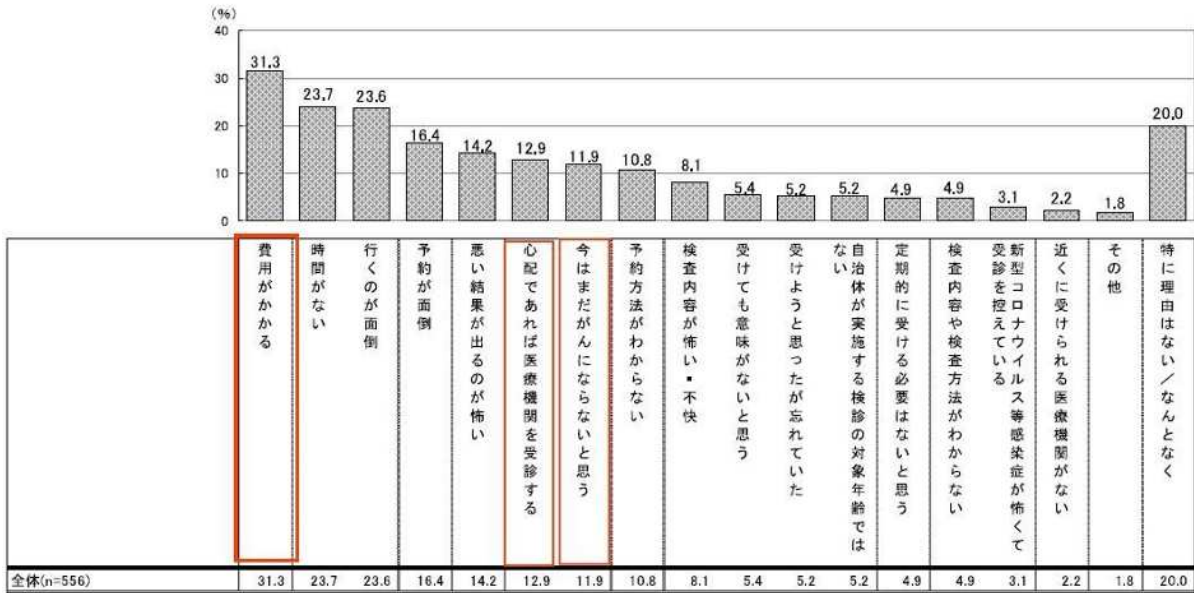
～～以下略～～

引用元：(2024年7月24日報告書「がん検診事業のあり方について」)

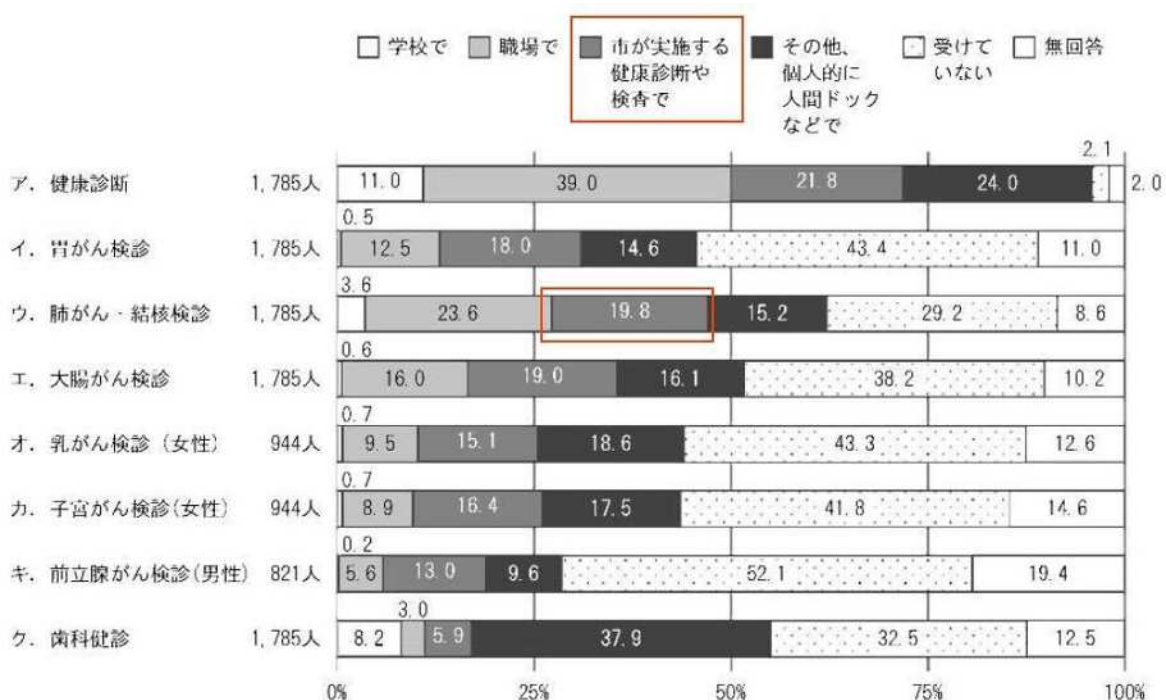
(資料③) 令和5年度インターネット意識調査

がん検診を受診しない理由 (複数回答)

あなたが、がん検診を、直近で受診していない、または、1度も受診したことのない理由は何ですか。以下の中から、あてはまるものをすべて選んでください。



(資料④) さいたま市健康づくり及び食育についての調査



知って受けよう！「がん検診のメリット、デメリット」
 がん検診にはメリットとデメリットがあります。
 このことをよく知ったうえで検診を受けましょう。

● **がん検診のメリット** 国立がん研究センター【がん情報サービス】参考

- ・ 早期発見・早期治療による救命の効果
- ・ 症状のない早期がんを見つけられること
- ・ がん以外の病気（例えばポリープ等の前がん病変）も見つかることがある
- ・ 「異常なし」と判定された場合に安心できること

● **がん検診のデメリット**

- ・ がん検診でがんが100%見つかるわけではないこと
- ・ 結果的に不必要な治療や検査を招く可能性があること
- ・ 検査に伴う偶発症の問題（極めて低い可能性ですが、検査に伴い偶発症が起こることがある）
- ・ 受診者の心理的影響（検査の結果が出るまでの間の心理的な負担がある）

⇒がんやがん検診についての情報は、
 国立がん研究センター 【がん情報サービス】



お問合せ／各区保健センター（市外局番：048）

西 区	Tel	620-2700	Fax	620-2769
北 区	Tel	669-6100	Fax	669-6169
大宮区	Tel	646-3100	Fax	646-3169
見沼区	Tel	681-6100	Fax	681-6169
中央区	Tel	840-6111	Fax	840-6115
桜 区	Tel	856-6200	Fax	856-6279
浦和区	Tel	824-3971	Fax	825-7405
南 区	Tel	844-7200	Fax	844-7279
緑 区	Tel	712-1200	Fax	712-1279
岩槻区	Tel	790-0222	Fax	790-0259

差出人：さいたま市健康支障課 〒338-0013 さいたま市中央区錦谷7-5-12
 この部分からゆっくりはがしてください



健康に自信がある・・・からこそ、定期的に「がん検診」を受けましょう！

「健康に自信がある」「心配な時は受診するから大丈夫」と思っている方・・・
 「がん検診」と「診療」は目的が異なります。

がん検診は、自覚症状がないがんを早期に発見・治療につなげるものです。
 そのため、健康に過ごしている時に、定期的に、受けることに意義があります。
 健康に自信がある方、元気な方、積極的にがん検診を受診しましょう。

知って受けよう！「がん検診のメリット、デメリット」

● **がん検診のメリット**

- ・ 検診とめるがんによる死亡を防ぐこと
- ・ 早期発見により治療が軽微ですむ など

● **がん検診のデメリット**

- ・ がんがあるのに、検診検査が不要と判定される「陰性偽」
- ・ 検査時の出血など、医療行為に伴う合併症である「偶発症」 など

⇒がんやがん検診についての情報は、国立がん研究センター 【がん情報サービス】

お問合せ／各区保健センター（市外局番：048）

西 区	Tel	620-2700	Fax	620-2769
北 区	Tel	669-6100	Fax	669-6169
大宮区	Tel	646-3100	Fax	646-3169
見沼区	Tel	681-6100	Fax	681-6169
中央区	Tel	840-6111	Fax	840-6115
桜 区	Tel	856-6200	Fax	856-6279
浦和区	Tel	824-3971	Fax	825-7405
南 区	Tel	844-7200	Fax	844-7279
緑 区	Tel	712-1200	Fax	712-1279
岩槻区	Tel	790-0222	Fax	790-0259

差出人：さいたま市健康支障課 〒338-0013 さいたま市中央区錦谷7-5-12
 この部分からゆっくりはがしてください

さいたま市骨髄移植ドナー助成費交付事業の現状について

1 骨髄移植とは

ドナー※¹の腸骨という大きな骨に針を刺し、骨髄から造血幹細胞※²が含まれた骨髄液を採取して、患者に移植する治療法。

さいたま市骨髄移植ドナー助成費交付事業では、この骨髄移植のほか、末梢血幹細胞移植のためのドナーも含んでいる。

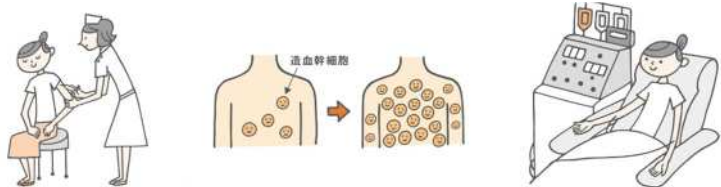
<骨髄採取の方法>

ドナーに全身麻酔をして腸骨（骨盤骨）に針を差し注射器で骨髄液を吸引する。



<末梢血幹細胞採取の方法>

採取3~4日前にドナーに G-CSF（白血球を増やす薬）を注射し、末梢血中に造血幹細胞が増えてきたところで、血液成分を分離する機器を使い採取する。



出典：公益社団法人日本骨髄バンク「ドナーのためのハンドブック」

※¹ ドナー：健康な造血幹細胞を提供してくれる人（提供希望者）のこと。

※² 造血幹細胞：白血球、赤血球、血小板のもとになる細胞のこと。骨の中心部にある骨髄で作られている。

2 骨髄移植を必要とする主な病気

白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、重症再生不良性貧血、免疫不全症、一部の先天性代謝異常症 等

3 ドナー登録について

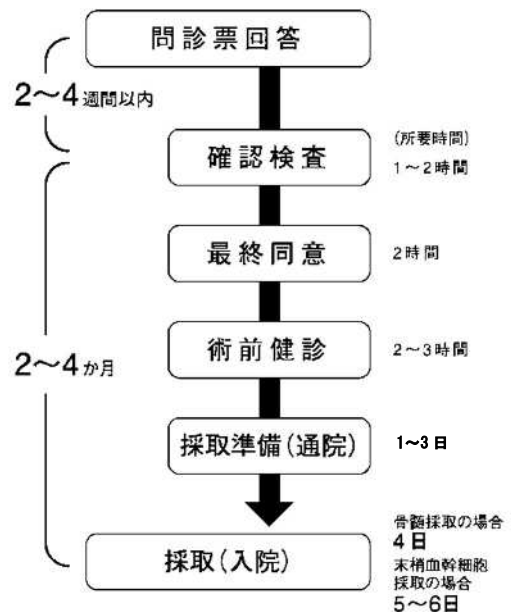
(1) 登録年齢

18~54歳の方 注)登録条件あり

(2) ドナー候補者になった際の流れ

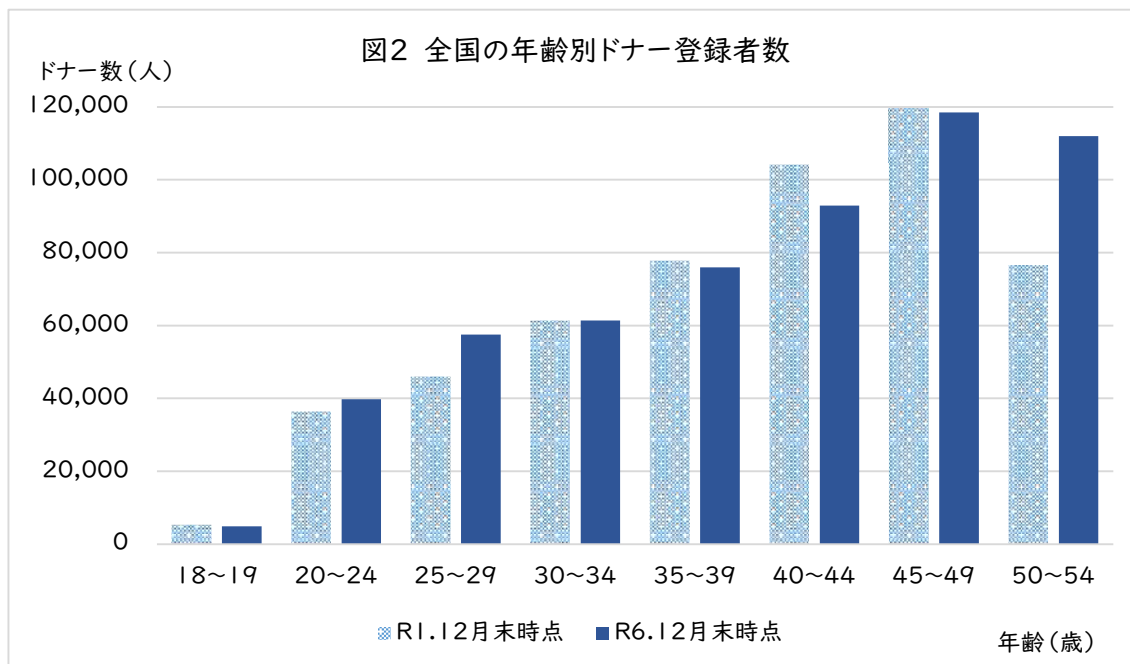
(適合から提供まで※³)

図1 適合から提供までのスケジュール



出典：公益財団法人 日本骨髄バンクホームページ

(3) 全国の年齢別ドナー登録者数



資料：日本赤十字社、造血幹細胞移植情報サービス、
「年齢別・男女別ドナー登録者現在数」よりさいたま市が作成

<現状>

- ・ドナー登録現在数(令和7年10月末現在速報値)は、565,858人。
- ・ドナー登録者の高齢化が進んでいる。
- ・骨髄移植等における安定したドナーを確保するためには、骨髄等の採取まで繋がりがやすい若年層を中心にドナー登録の働きかけを行うことが極めて重要。
- ・移植には、患者とドナーの白血球の型の適合を要するが、その確率は数百から数万分の1と非常に低い。そのため1人でも多くのドナー登録が必要。


4 さいたま市骨髄移植ドナー助成費交付事業について

(1) 目的

骨髄・末梢血幹細胞提供者の休業による経済的負担の軽減をもって、骨髄・末梢血幹細胞移植の推進及びドナー登録の推進を図る。

<対象者> 次のすべてを満たす方

<交付額>



- ・骨髄・末梢血幹細胞の提供を行った方、または提供にかかる最終同意を行った後に提供が中止となった方
- ・骨髄・末梢血幹細胞提供者で提供した日、または中止となった日においてさいたま市に住所があり、日本骨髄バンクが発行する証明書の交付を受けた方
- ・他の自治体を実施する助成金等を受けていない方

- ・骨髄・末梢血幹細胞の提供のための通院、面談、入院の日数
- ・1日につき2万円を交付
(1回の提供につき14万円を限度とする。)

※勤務する企業・団体等のドナー休暇制度の対象となるものを除く。

(2) 助成開始時期

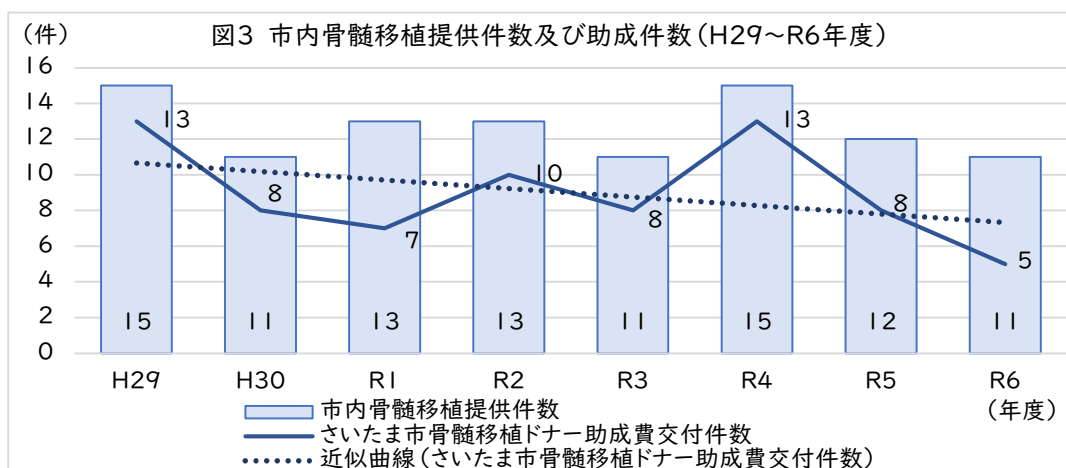
平成26年度

(3) 周知方法

市ホームページ、SNS(X)、市報、リーフレットの窓口等への配架、ポスターの掲示

(4) 市内骨髄移植提供件数及び助成件数

さいたま市骨髄移植ドナー助成費交付事業の助成を受けた件数は緩やかに減少傾向。



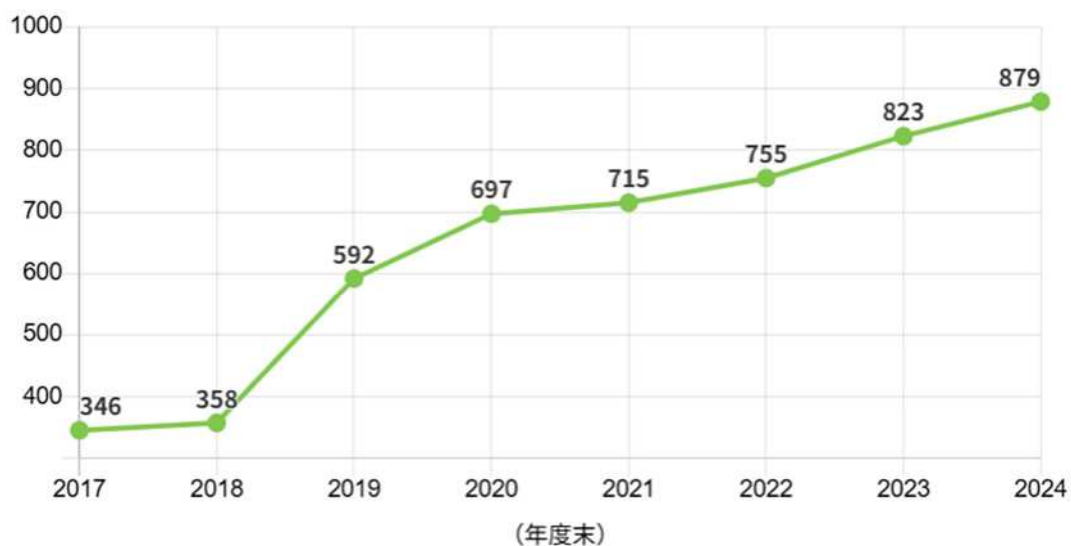
市内骨髄移植提供件数の平均(年)	12.6件
さいたま市骨髄移植ドナー助成費交付事業の助成を受けた件数の平均(年)	9.0件

※市の助成開始は H26 からであるが、市内骨髄移植提供件数(埼玉県提供)が H29 からであるため、グラフは H29 以降で作成

5 ドナー休暇制度導入数

ドナー休暇制度導入数（日本骨髄バンク把握分）

2017 年度末	2018 年度末	2019 年度末	2020 年度末	2021 年度末	2022 年度末	2023 年度末	2024 年度末
346	358	592	697	715	755	823	879



出典：厚生労働省、「働き方・休み方改善ポータルサイト」

6 さいたま市におけるドナー登録推進に向けた取組

市ホームページ、SNS(X)、市報、リーフレットの窓口等への配架、ポスターの掲示